

# はくさんさん

## 生きがい

第110号 R1年夏号  
伊豆市 法住寺 発行

先日、初老のご婦人が 何か生きがいがない、わからなくて…」とつぶやくように言われた。既にお孫さんも何人かいて、夫婦仲も良く、世間から見れば何不自由なさそうに見受けられる。

あらためて生きがいって何だろうと思っただ。私の若い頃は、仕事に励むというか追われて無我夢中、子供を育てることで精一杯、生きがいなんて考える余裕もなかったように思う。今の時代は、ますます個の時代になっていて、個人の意思を輝かせることが価値あるという風潮だが、若い時の日々精一杯は今も昔も変わらないように思う。

### 「寿量の祈り 敬意と感謝」

大自然 ありがとうございます。 合掌  
社会の皆さん ありがとうございます。 合掌  
ご先祖さま、家族の皆さん ありがとうございます。 合掌



お寺のホームページ  
<http://juroyo.jp/>  
検索 ▶ 「伊豆 法住寺」

\*

私が学生の頃、岡潔の「春宵十話」がベストセラーになり、日本人の心を語る深遠な言葉が世に響いたことがある。戦後から始まった西洋的な個の時代は、自分の意思で自分の力で生きていく、それが大切な価値という風潮である。これに対し、生きるということとは「種子」のようなものと岡は云う。種は適した土壌、雨、太陽の光、適した時、そうした様々な外の力、大自然のお陰さまを頂いて育ち、情緒が育っていく。殊に幼少期、子供は自分で好きなように遊ぶ、適度な躰はするにしても好きなだけ遊ばせておく、それで情緒が育つ。最近は早くから知育してしまう傾向があるが、人として何より大切な心が希薄になり、感じ取るということが出来にくくなる。岡の云うことは、そういうことだったと思う。

\*

初老のご婦人、老いるまでには随分苦労もしたし努力もし、多くのお蔭さまも頂いてきたであろう。そして生きがいって何？と思う余裕ができ、心が彩り動きだした。カラカラに乾いて雨が欲しくなっても、自分の力で雨を降らせることは出来ない、ジッと待つしかない。自分の意思は活かしつつ、一日一日を丁寧に暮らす。今日の雨で穏やかになり、暑すぎる季節の中にも涼やかな風のありがたさを感じ、食卓の野菜は美味さを増す。何々の為に生きるとか思わなくても、あるがままに大自然のお蔭さま、心を感じながら暮らす、それで良いように思う。

\*

今日は私の誕生日、七十二年間生きてきたことになるが、幼少期に情操が育たなかったのか、心の未熟を思うことがよくある。この歳になってもガキッぽく、云いたいことを言ってしまう後悔したり、でもこれが自分なんだと諦めたり。また境内の手入れが出来ることは気持ちよく、毎朝のお勤めで気持ち透過き通ることは有難く、それが生きがいってことかなと思うのです。

## 護持会新役員

第23期【H31.4.1～R3.3.31】の新役員さんが決まりました。4月13日新役員会が開かれ、護持会長、副会長、会計、監査が選出されました。また年度活動計画、今後の課題等検討して頂きました。どうぞ宜しくお願い致します。（敬称略）



## お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

行に集中することが出来る。そして清々しい緑の中をご廟所までゆったりと歩く。大好きな時間だ。

6月9日身延山輪番奉仕 参詣の日。祖山には爽やかな風が吹き渡り、時折静かな慈雨が降り注いでいた。歳を重ねるごとに租山へのお参りが楽しみとなってきた。大聖人の大きな懐にいだかれていた様な安らぎを覚え、何より心が解放されるひと時でもある。

その日の私は、ある特別な想いを持つての参詣をしていた。実家の父親が病気の末期であり、看取りの時期を迎えていた。

元気ではあったが食欲も落ち、時折やってくる痛みや苦痛に身の置き処のない様子もあった。そしてこれからが本人にとっても家族にとっても正念場だと思っていた。平素、本人は静かに 苦しまず 眠るように逝きたいよ」と言っていた。だからこの日は、素直に大聖人に「どうか苦しむことなくお導きくださいます様に」と一心に祈った。そして明日は又会いに行つて身体をさすつてこようと思いつつ帰路についた。

\*

バスが東名サービシアに着き出発しようとした時、洋明上人が小走りに来て「お母さん、おじいちゃんが亡くなったって」と告げた。不意の驚きと同時に「お祖師さまだ」と直感した。途端に涙が溢れ出て、皆さんに気付かれない様 一人ベンチで泣いた。ともかく気をとりに直し、檀家さん方の無事を見届けて帰山。直ぐに父のもとへと向かった。

\*

まだ温かい。静かに穏やかな顔をしている。

前日は妹家族一同、ひ孫にも囲まれて写真を撮っている。その中心にバンザイをしている父が居る。幸せな1枚だ。亡くなる日もバンザイをしてスイカを美味しいと食べて眠る様に逝ったという。

ちようど身延山のご本尊さま、お祖師さまへのお給仕を終えるころ、お迎えを頂いたのではなからうか。偶然という言葉は知っているが、この時は時空を超えてお祖師さまが多勢250名の中の一人である私の小さな願いをお聞き下さり思いをくんで下さった。このことは生涯忘れ得ない。だから私は信じる。仏



夏ロウバイ

さまはみそなわしていることを。そして信じるからには自分に与えられた日々の仕事・お給仕をしっかり勤めてゆこうと心新たにすのだった。

## 相談

5月末から6月中旬にかけ身内の葬儀が重なり、あらためて様々のことを思った。20年位前までは、亡くなると近所の方々のお力により自宅でお葬儀したり、出棺したりしていた。都内でも同じで、路地に人が溢れ、それがお葬儀だった。施主となると先ずはご近所にお願ひすれば何とかしてくれる、大変な中にも悲しみに浸ることが出来たように思う。

今の時代、いざその時になると施主として様々な、馴れないことを決めていくことになる。会葬者の概数を考え、それに応じた会場や駐車場を確保、様々な細かい具体的な内容等々。私も今回、施主の直ぐ傍で大きなお葬儀を執り行い、涙している余裕がない程だった。

施主になることは馴れない事で、不安になるし、亡くなつてないのに

お葬儀のことを考えるのは不謹慎と想った。でも誰もが通る道、臨終のことを習うて他事を習うべし」とお祖師さまもお示しです。亡くなつたらご近所にお任せしておけば何とかやつてもらえるという時代でなくなりました、チョットしたことでも不安や分からないことがあればお役に立ちたいと思ひます、ご相談下さい。



花まつり 甘茶供養



天城シヤクナゲ 五月初旬

## 行事予定

8月3日(土)午後3時

新盆供養、お施餓鬼

8月7,8日(水、木) 少年少女寺子屋



## 仕合せと幸せ

皆さんは、中島みゆきさんの糸という歌をご存知でしょうか？縦の糸はあなたく横の糸は私く♪先日、この歌の歌詞であることに気付きました。それは最後の歌詞 逢うべき糸に 出逢えることを 人はしあわせと呼びます♪のしあわせが「仕合せ」となっているのではないですか！私はずっと今まで「ハッピーの幸せ」と思い込んでいたのです。

### 御志心納金 三月～六月

清水 山本 邦宏殿 尊父葬儀 砌  
清水 森野哲殿 尊祖母葬儀 砌  
西 山田純一殿 尊父葬儀 砌  
元村 飯田昌之殿 尊母葬儀 砌  
小川 室野千肥路殿 令息葬儀 砌  
八幡 北尾健一殿 永代供養 砌  
稲取 薬師寺佳子殿 永代供養 砌

仕合せを辞書で調べますと運命や巡り合わせという意味。仕合せの仕は仕事の仕。以前、仕事とは 仏天の与えて下さった事に仕える」という話をしたことがあります。この仕は仏天にお仕えするという意味を持ちます。つまり仏天の下さる巡り合わせが仕合せなのです。この縦の糸と横の糸が重なる仕合せを、私たちの仏教では縁といいます。縁という字に糸偏を使うのには納得。

\*

それではこの縦の糸はどこから伸びてくるのでしょうか？また縦の糸とは何でしょうか？私は、縦の糸は仏天から何本も伸びてきていて、その中の一番太い一本がお題目だと思っております。しかも私たちがご先祖さまを経由して伸びている。その昔、ご先祖さまが頂いてきた縦の糸、その縦糸が私たちの中に出て継がれ、今も脈々と流れ続けているのです。そこに日々の私たちの横の糸を通しているのでしよう。またある縦糸は他力であり、横糸は私たちの日々の自力。この自力と他力で様々な毎日の布を織っているだと思っております。私たちの細胞の中にあるDNAは、まさにご先祖さまに頂いた目に見える縦の糸。

しかし私たちは、せっかく頂いた仕合せを

見落としてしまうことがあります。横糸の自分の事ばかり考えてしまう時がそうです。自分が自分が、俺が俺がの自己が強くなりすぎると、せっかくの縦糸を見失い、見落し、気付かなくなってしまう。これがすれ違い。

\*

もうすぐお盆です。お盆も、仏天とご先祖さまからの縦の糸と、私たちの横の糸の仕合せです。すれ違うことはなく、ご先祖さまをお迎えしたいものです。また感謝のお題目とご供養のおもてなしをしたなら、仏天とご先祖さまは間違いなく喜んでくださる。その時は

はお迎えした私たちも、心から嬉しくなり 仕合せ」は「幸せ」になることでしょう。



寿量の塔 シヤガがみごと 四月下旬